

# 字幕放送への対応について (在阪局の事例から)

2022年12月  
株式会社毎日放送

## 在阪準キー局（4局）および毎日放送の字幕付与率の推移

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
在阪準キー局（4局） ABC/KTV/YTV/MBS	普及目標の対象となる番組 における字幕番組の割合	99.0%	99.7%	100%	100%	100%
	総放送時間に占める 字幕放送時間の割合	60.2%	62.1%	64.0%	65.6%	67.3%
毎日放送（MBS）	普及目標の対象となる番組 における字幕番組の割合	98.6%	98.7%	100%	100%	100%
	総放送時間に占める 字幕放送時間の割合	50.2%	52.3%	53.7%	52.9%	54.4%

# 字幕付与拡大に向けての施策（毎日放送）

- 普及目標対象となる番組以外でも積極的に字幕付与（深夜ドラマ・アニメなど）

- 生字幕体制の強化

## ①生放送情報番組での生字幕付与

土曜あさ 7時59分～ 「サタデープラス」（全国ネット 86分枠）  
9時25分～ 「せやねん！」（関西ローカル 196分枠）など

## ②スポーツ生中継で生字幕付与

（野球・ゴルフ・ラグビーなど生中継で100%実施）

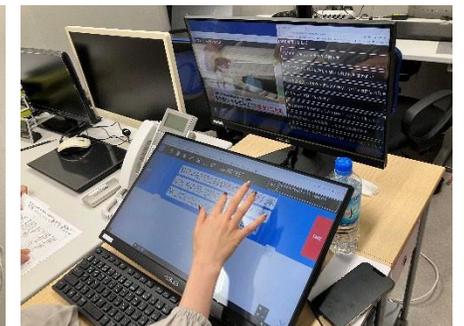
## ③ローカルニュース番組での生字幕付与

（キー局TBSが開発した生字幕付与システム「もじぱ」を導入・・・次ページ詳細）

## ④機材増強・人員確保など

# キー局・TBSテレビが開発したAI生字幕付与システム「もじば」を活用した字幕付与事例（毎日放送）

- 2019年から株式会社TBSテレビとソニービジネスソリューション株式会社が共同で実証実験を進めてきた、音声解析AIを活用してテレビ字幕を自動的に生成するシステム「もじば音声認識テキスト化システム」（以下、もじば）が、2020年11月TBSテレビで正式導入されました。
- 「もじば」は、音声からリアルタイムで自動的に字幕を生成。担当者が生成された字幕をディスプレイ上で確認し、必要に応じて内容を微調整し番組に字幕を手動で付与します。報道番組に特有な時事用語や人名などを事前に登録し、字幕として認識させることも可能なシステムです。
- 毎日放送では生字幕付与向上につながると2021年度から「もじば」導入を検討。「もじば」の委託販売を請負う株式会社トラフィック・シムからシステム購入。2022年6月テスト運用、7月本格稼働しました。
- 現在は昼11時50分頃「MBSローカルニュース枠」約3分間で「もじば」での生字幕付与を実施。さらに拡大すべく検討中。
- 運用は、ニュース原稿を事前に手元用意、自動生成された字幕をオペレーター2人で内容確認・誤字修正・送出ボタン押し。
- 現在の精度は、1分ニュースで2～3か所修正が入ることが多い。



# 今後の課題

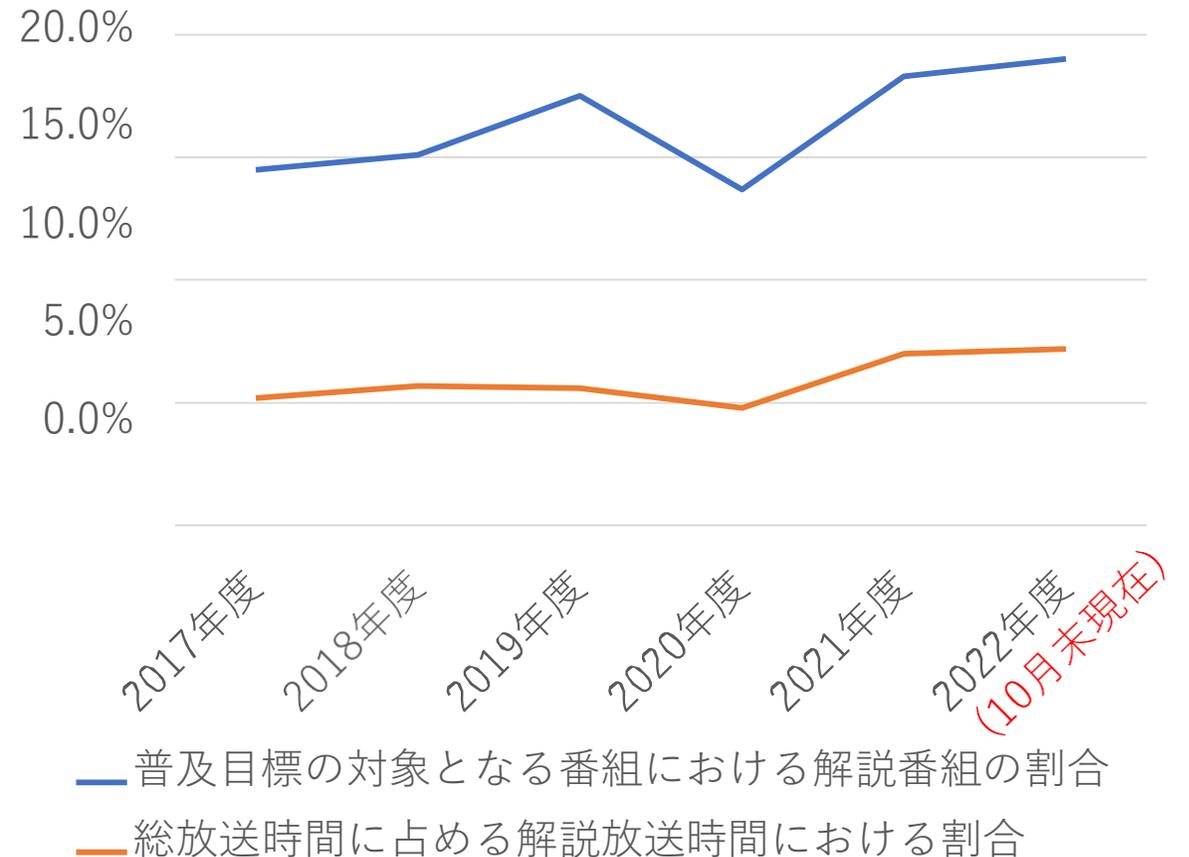
- ① 生放送情報番組がタイムテーブルで大きなウェイトを占めている現状、生字幕への対応強化が課題。
  - ➔ 生字幕対応オペレーターの確保、金銭負担増、ともに厳しい出演者が多い生放送情報番組ではオペレーター増やすことで字幕作成は可能だが、すべて送出するのは厳しい
- ② AIを活用したリアルタイム生字幕も、現時点では最後は人間によるチェックが必要。
  - ➔ 毎日放送でもシステム上は、深夜などであっても「もじば」電源ONすれば生字幕を出すことは可能だが、まだ、AIのみでは「正しい字幕を出す」という放送局の責任が果たせていないと判断し、踏み込んでいない。（オペレーター常駐が現時点では必要）
- ③ 人命・財産に関わる災害時での対応が最重要課題と認識しています。

# 解説放送への取り組みについて (2022年)

2022/12  
フジテレビ

# フジテレビにおける過去5年間の解説放送付与率実績

	普及目標の対象となる番組における解説番組の割合	総放送時間に占める解説放送時間における割合
2017年度	14.5%	5.2%
2018年度	15.1%	5.7%
2019年度	17.5%	5.6%
2020年度	13.7%	4.8%
2021年度	18.3%	7.0%
2022年度	(10月末現在)19.0%	(10月末現在)7.2%



# フジテレビにおける現状の取り組みについて

## 地域格差軽減を目指し、 GP帯を中心とした全国ネット番組に積極的に付与していきたい

### ①制作体制の見直し

2027年度まで右肩上がりでの拡充計画を予定していたが、  
2020年度における付与率は、前年度より17.5%から13.7%と3.8%も減少。

これは、もともとスケジュール等の問題で解説放送付与できる番組が限られているうえ  
コロナにより収録や編集スケジュールに大幅な狂いと変更が生じたため、納品遅延が頻発。  
それに伴い、スケジュール的に解説放送を付与できる番組が前年度より激減したことが理由。

そのため、番組制作スケジュールの見直しを全社的に行い、

➡ **2021年度は月曜9時、木曜10時の全連続ドラマへ解説放送を付与。**

# フジテレビにおける現状の取り組みについて

## ②地上波のみならず、配信版へも字幕放送と解説放送を付与

今クールで放送中のドラマ「silent」は、主人公が聴覚障がいを持っているという設定のため、字幕放送と解説放送はマストと考え、社内各所協力のもと、通常の地上波放送に加え、リアルタイム配信を除いたすべてのAVOD(広告付き無料動画配信)、SVOD(定額制動画配信)に配信版でも字幕放送と解説放送付きで放送。

## ③地上波では放送されない番組にも字幕放送、解説放送を付与

11/17より3回にわたって配信される

「silentドキュメンタリー番組」は地上波では放送されないが、視聴者からの高いニーズに応えるため、積極的に付与を決定。



# フジテレビにおける現状の取り組みについて

## ④ドラマ、アニメ、邦画以外のジャンルにも新たに解説放送を付与

2022年4月より、毎週金曜日23:00～23:40放送のバラエティ番組「全力！脱カタイムズ」への解説放送を付与開始。

今後も、様々なジャンルの番組へ解説放送付与を検討していきたいと考えている。

## ⑤系列局への協力とさらなる解説放送制作会社の開拓

解説放送の認知向上と地域格差の是正を図り、系列局が制作する全国ネット番組はもちろん、ローカル番組でも解説放送付与について相談や要請を受けた場合、積極的に協力している。これまで共同テレビのみだったが、2019年より、もう1社（FCC）にも委託が可能となった。

# フジテレビにおける現状の取り組みについて

## ⑥解説放送の質の向上を目指し、定期的にミーティング

<例「silent」>

- ・手話で会話を行うシーンが多くあるが、手話部分の会話を解説放送ではどう対応するかを放送開始2か月以上前から議論。

案1：「手話で『●●●』と会話している」など客観的にナレーションをつける。

案2：手話台詞部分だけボイスオーバーする。

上記2案のいずれにするか台本や映像を早めに入手して検討を重ね、

手話台詞部分だけボイスオーバーする形式にし、複数のアナウンサーを発注し、収録している。

→ また、解説放送を担当するアナウンサーとも事前に綿密な打ち合わせを行っている。

# 今後の課題や検討項目について

- スポーツ番組への生解説
- データ放送との連携
- 文字スーパーの自動音声化についての研究
- 解説放送のさらなる質の向上

# 手話放送への対応と課題

2022/12

テレビ東京

## 22年10月クール:テレビ東京における手話放送(27分/週)

- 隔週日曜 5時20分～ 5時30分 「ウォッチ！7」 \*VTR番組
- 毎週日曜17時20分～17時30分 「TXNニュース」
- 毎週月曜21時54分～22時00分 「東京GOOD」 \*VTR番組
- 毎週火曜21時54分～22時00分 「東京 交差点」 \*VTR番組



# TXNニュースにおける手話放送

- ① 実際のニュース制作の流れ
- ② ニュース制作における工夫や課題
- ③ 将来的な展望と課題

# ①実際のニュース制作の流れ(TXNニュース 毎週日曜17時20分～30分)

16時ごろ

・手話通訳は放送1時間前の16時頃に  
来局します。原稿を読んで、アナウン  
サーの下読みを読んで、手話をリハー  
サルします。VTRもすべて確認。



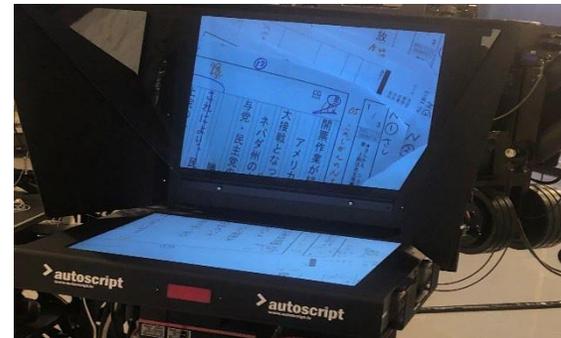
17時20分

・スタジオではアナウンサーの下手  
に 立って、プロンプターと音を聞きな  
がら 通訳します。当初5分はネットゾ  
ーン。  
17時25分から、関東ローカル枠。  
天気予報も含め伝えます。



18時ごろ

・放送終了後は、必要に応じ当日の反  
省点などを共有し、より見やすい手話  
放送になるよう、スタッフと手話通訳  
者で改善に向け議論しています。



## ② ニュース制作における工夫



- 左側中央に、見やすさを高めるため背景色やワイプの形・大きさを議論し、現在のような形になっています。
- これに合わせて放送用のテロップなども、レイアウトを一部変更しています。



手話は平均してアナウンサーのコメント読みよりも1～2秒程度長くかかるため、**顔出しリードは1秒長く**、**V中のコメントは2秒長く**計算するなど、手話の内容や難度に合わせて原稿の秒数を細かく調整しています。

特に、外国語の固有名詞が多く、新しい話題の国際ニュースは調整に時間を要します。



• 「地図や字が全面に出るニュースでも、**「すべての情報に手話を活かす」**前提に変更。天気予報や数字を読ませるための全面CGの画面も更新しました。代わりに地図やCGなどのサイズが若干小さくなっています。

手話通訳者も位置関係が逆にならないよう、工夫して通訳してもらっています。

### ③ 課題や将来的な展望

- 手話通訳者の絶対数やコストの問題

→ ニュース制作と同様か、あるいはそれ以上に、極めて高い専門的知識と技能が必要。  
ネットゾーン編成の番組であれば、系列局の難聴の視聴者にも届くが、課題も

- 手話通訳に適する番組内容の課題

→ 長時間番組、複数話者への対応、テンポの速い番組など。

- 緊急時における災害報道

→ 自社で緊急時に手配、構築するには極めてハードルが高い。

# 緊急災害時における ユニバーサルサービスの対応と課題

2022/12

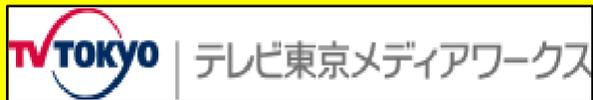
テレビ東京

# 緊急災害時のユニバーサル放送

- ① カットイン、報道特番での生字幕対応
- ② 視覚情報だけに依存させないアナウンス
- ③ 官庁発表・会見時での手話ワイプの入れこみ

# ①カットイン・報道特番時の生字幕対応

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
0時	×	×	×	×	×	×	×
3時	×	×	×	×	×	×	×
6時	×	×	×	×	×	×	×
10時	○	○	○	○	○	△	△
12時	△	△	△	△	△	△	△
15時	△	△	△	△	△	△	△
18時	△	△	△	△	△	×	×
21時	○	○	○	○	○	×	×
23時	×	×	×	×	×	×	×



テレビ東京の字幕制作全般を委託

- 比較的早期に災害報道への生字幕付与が可能
- △→場合により早期に災害報道への生字幕付与が可能
- ×→生字幕の付与に時間がかかる可能性が高い

## 番組内容による、字幕付与の方法の差異

- **WBS・ひるサテ**(複数話者の生番組)
- リレー入力方式で実施。入力者3名、校正と送出担当1名、計4名で1チーム。
- 生字幕付与には数年の業務経験に加え専門的な訓練が必要。テレビ東京ではグループ会社が専門社員11名、契約で4名の15名でシフトを組みまわしている。

- **ゆうサテ、TXNニュース**
- (話者1名のニュース)
- 入力、兼送出担当1名で対応。
- あらかじめ原稿を入手し、ある程度ソフトに事前に読み込ませる事で省力化。
- 実際の放送を確認して予定字幕を送出する為 タイムラグは発生する。

**\* 緊急災害における生放送対応については、リレー方式の4名で対応する必要がある。**

- 21年10月8日千葉西地震（震度5） →WBS内の22時41分に起こったため、カットイン終了の24時28分まで生字幕を継続した。
- 22年11月3日Jアラート（北朝鮮） →早朝7時51分～8時52分にカットインを行ったが、生字幕制作の準備まで間に合わなかった。

**特に大きな災害が起きた場合… 字幕制作者の安全も確保するという前提で、最大72時間の報道特番を想定したローテで対応。**

# 緊急災害時のユニバーサル放送

- ① カットイン、報道特番での生字幕対応
- ② 視覚情報だけに依存させないアナウンス
- ③ 官庁発表・会見時での手話ワイプの入れこみ

# 解説放送や手話放送に該当する部分の製作方針

## 視覚障害者にも分かりやすく

- ・アナウンサーによる地震・津波情報の読み上げの注意点

\*地名や津波など、特に命にかかわる情報は必ずアナウンサーが丁寧に読み上げる。

## 出来る限り手話を

- ・気象庁会見や政府の会見を生中継する場合は、隣の手話通訳者のワイプを可能な限り入れる。

## 今後の課題

- 自動字幕生成技術 → 命や生命にかかわる緊急放送で「誤報」のジレンマとどう向き合うか
- 独自の手話報道 → 24時間体制での人材の確保、受け入れ体制の問題など。

# ローカル局の現状と課題

2022年12月  
広島ホームテレビ

## 系列県域局の状況（総務省の公表資料参照）

- 在京キー局、在阪準キー局、在名広域局では、字幕放送の割合がほぼ100%であるのに対し、ローカル局は90%に達していない
- ローカル局の解説放送の割合や手話放送の分数でも在京、在阪、在名局に、追いついていない
- 地上系民間放送のうち、在京キー局（5局）、在阪準キー局（4局）、在名広域局（4局）を除くローカル局は、全国に101局存在する（局数では88.6%）

# ローカル局（広島県内の4局）の現状

	A局	B局	C局	D局
①字幕放送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> <li>・8月6日特番</li> <li>・年始特番</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> <li>・ローカル単発特番</li> <li>・レギュラーミニ番組×2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>
②解説放送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国ネット番組</li> </ul>
③手話放送	<p>県広報番組での実績あり</p>	<p>県広報番組での実績あり</p>	<p>県広報番組での実績あり</p>	<p>ミニ番組での実績あり</p>
※生字幕システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し (キー局の支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>

# ローカル局（広島県内の4局）の対応・課題

	A局	B局	C局	D局
④緊急災害時の対応	・ L字対応	・ L字対応	・ L字対応	・ L字対応
⑤字幕放送における課題	・ 制作時間の増加 ・ 機器導入の費用負担	・ 制作体制構築の負担増 ・ 機器導入とランニングコスト費用負担	・ 制作時間の増加 ・ 機器導入とランニングコスト費用負担	・ 制作時間の増加 ・ 機器導入とランニングコスト費用負担
⑥解説放送における課題	・ 人材確保 ・ 作業時間増	・ 制作体制構築の負担増 ・ コスト増	・ 人材確保 ・ 制作時間増	・ 人材確保 ・ 制作時間増
⑦手話放送における課題	・ 通訳士の人材確保 ・ 作業時間増	・ 制作体制構築の負担増 ・ コスト増	・ 通訳士の人材確保 ・ 放送時チェック体制	・ 通訳士の人材確保 ・ 放送時チェック体制
⑧配信コンテンツへの対応	実績無し	実績無し	実績無し	実績無し

# ローカル局

## 広島県のテレビ局の「字幕付きCM」の対応と課題

### 【対応】

- 「字幕付きCM」訴求CMを放送し、視聴者、アドバイザー、広告会社への認知と理解を拡げる
- 地元の広告会社やアドバイザーにも、今年の10月から全てのCM枠で字幕付きCMの受け入れ開始を文書で案内し、字幕付きCMの普及促進を実施
- 正しく字幕が重畳され、放送するために字幕付きCM素材の放送前確認を実施

### 【課題】

- 地元アドバイザーの字幕付きCMは、今後に期待している  
素材制作費や制作期間増が負担増がネック⇒アドバイザーと広告会社の理解が必要
- テレビ局で字幕チェックのために、従来の約3倍の時間が必要 人的負担増

# 民放BS局のユニバーサル放送の 現状と課題について

2022年12月  
BSフジ

# キー局系民放5局の字幕放送割合の推移

(BS日本、BS-TBS、BSフジ、BS朝日、BSテレ東)

## 2 K放送

(単位%)

	字幕割合 (目標の対象番組)					字幕割合 (総放送時間)				
	2017	2018	2019	2020	2021	2017	2018	2019	2020	2021
5社平均	23.3	34.6	52.2	53.4	54.2	12.2	20.6	29	28.6	28.8

## 4 K放送

(単位%)

	字幕割合 (目標の対象番組)					字幕割合 (総放送時間)				
	2017	2018	2019	2020	2021	2017	2018	2019	2020	2021
5社平均		63	55.3	52.7	54.3		36.7	29.1	27.6	27.3

## ■ 字幕放送について

現在、BS 2 K放送とBS 4 K放送の字幕付与の割合は、ほぼ同じ。

- 各局ともBS 4 K放送は2 K放送のサイマル番組が大半。2 K放送に字幕が付与されていれば4 K側にもリアルタイムで変換しながら字幕が送出される
- BS 2 K放送と4 K放送が非サイマルの場合、それぞれ字幕素材を作成・登録し送出する
- 生放送番組の字幕付与は、一部の局で対応可能
- 字幕付きCM素材は受け入れ可能

より多くの番組に字幕付与できるよう、引き続き取り組んでいく。

## ■ 解説放送・手話放送について

### 【解説放送】

2021年度の解説放送の付与割合は、2 K、4 Kともに5社平均で対象番組の1.5%。

(BSフジは2時間ドラマとアニメで解説放送の実績がある)

自社対応が可能となるよう研究を重ねたい。

### 【手話放送】

BSフジでは今のところ実績がないが、手話放送事例を研究し可能性を探っていく。

# 現状の課題と今後の取り組み (2022年)

2022/12

民放連ユニバーサルサービス部会幹事 テレビ朝日

# 行政指針の目標達成に向けて（1）

## 【令和3年度（21年度） 民放実績】

広域13局	目標達成	未達	県域101局	目標達成	未達	キー局系BS5局	目標達成	未達
字幕放送	11局	2局	字幕放送	92局	9局	字幕放送	3局(2K) 4局(4K)	2局(2K) 1局(4K)
解説放送	10局	3局	解説放送 (努力目標)	55局	46局	解説放送 (努力目標)	1局(2K) 1局(4K)	4局(2K) 4局(4K)
手話放送	9局	4局						

### 現行の目標値の達成

行政指針の4年目となり目標を達成する局も増えてきたが、まだ全局達成していない。

すべての局が目標を達成するために、キー局が中心となって目標未達成局を支援していく。

# 行政指針の目標達成に向けて（２）

## 現行の目標値の見直し

まずは全局が現在の目標を達成することを第一と考えている。

その上で、次の行政指針が出される2027年度に向けて、目標見直しの検討を開始していく方向がよいのではないか。

特に手話放送の目標を、字幕放送・解説放送と同じく「付与対象番組の〇%」へ変更するのは、対象番組の選定等の検討課題が多いため、

今後の手話番組の拡大の状況と合わせて、慎重に検討を進めていきたいと考えている。

# 地域格差の解消に向けて

## ローカル局の現状

ローカル局は、在京キー局、在阪・在名広域局と比べて経営規模が小さく、コロナ禍による経営環境の悪化、設備導入の遅れ、運用人員の確保等の課題が非常に大きい。

## 今後の対応強化

キー局、準キー局等の全国ネット番組での対応を強化

キー局が開発したシステム（もじぱ）をローカル局へ展開や、設備やシステムを導入した際の助成金等の支援

自動字幕システム等の新技術の研究

# ユニバーサル放送の質の向上に向けて（1）

## 意見交換会等の枠組みの強化

「全国字幕放送普及推進協議会」（NHK＋民放広域局）を発展的に解消し、

「全国ユニバーサル放送推進協議会」に組織を改編（2023年夏に総会を実施予定）。

字幕放送だけでなく解説放送・手話放送の状況も共有し、付与拡大を推進していく。

（技術的な相互協力についてもこの枠組みで調整していく）

またリモート会議等を利用し、これまでNHK＋在京キー局と障害者団体で実施していた

意見交換会の枠組みを在阪準キー局、在名広域局へ拡大することも検討。

# ユニバーサル放送の質の向上に向けて (2)

## 新しい技術・システムの研究

新しい技術やシステムの研究については、「全国ユニバーサル放送推進協議会」で共有し、NHK・民放が歩調を合わせて取り組んでいく。

TVer等の動画配信の利用者も増加しており、運用負荷の課題やシステムが未対応等の問題はあるが、一步一步着実にユニバーサル放送の対応強化を図っていきたいと考えている。